

第6学年 体育科学習指導案

指導者 体育専科 橋本 圭右

- 1 日時 令和5年9月29日(金) 5校時(13:50~14:35)
- 2 場所 体育館
- 3 単元名 みんなが楽しめる運動を考えよう(体づくり運動領域 体ほぐしの運動)
- 4 授業づくりに関する考え方

(1) 子どもの実態と教材の特性

子どもの実態	<ul style="list-style-type: none"> ○ 本学級の児童は、全体的には真面目であり、意欲的に活動に取り組むことができる。積極的に挙手をする姿も4月に比べ多く見られるようになった。しかし、発言する児童は偏りがあり、個人の意見を全体に伝えることを苦手としている。グループ活動等を通して、積極的に仲間と交流する機会を増やしていくことが必要と考える。 ○ 新体力テスト、水泳等の様子から、運動能力の面における差は大きいものの、各自が自分の力を伸ばそうとする姿が多く見られている。(知識及び技能) ○ 一人一人やチームがより活躍できるように、対話を重ねながらルールや場の工夫をしたり、伝え合ったりする経験はまだ少ないが、課題に応じて話し合いや練習を重ねることで、できるようになる喜びを感じてきている子どももいる。(思考力、判断力、表現力等) ○ 運動に対して苦手意識を持っている子どももいるが、どの活動でも意欲的に取り組んでいる。運動を重ねることで、より運動に親しもうとする姿勢も見られるようになってきた。しかし、「する・みる・支える・知る」の視点では、運動を多様に楽しむところまでには至っていない。(学びに向かう力、人間性等) 	教材の特性	<p>体ほぐしの運動は、体を動かす楽しさや心地よさを味わうことができ、運動の得意、不得意に関わらず、どの子どもも取り組みやすい運動である。また、運動をすると心が軽くなったり、体の力を抜いてリラックスできたりするなど、運動を通して心と体との関係に気付くことができる。運動を通して自他の心と体の違いを理解し、仲間のよさを認め合い、仲間の心と体の状態に配慮しながら豊かに仲間と楽しむことや大切さを体験することができる単元である。</p> <p>今回扱う「みんなが楽しめる運動を考えよう」は、仲間とつながりながら試行錯誤し、楽しい運動を考えていくことができる教材である。運動にアレンジを加えやすい分、グループの仲間と対話しながら運動を考えていくことができるであろう。また、ルールを工夫したり、運動の難易度を変えたりすることで、自分のペースで運動することができ、運動が苦手な子ども積極的に運動に取り組むことができるであろう。子どもたちが自らの手で新たな運動を開発し、体を動かす楽しさや心地よさを味わうことができる教材である。</p>
--------	--	-------	---

(3) 単元計画

<p>ア 研究の視点及び手立て</p> <table border="1"> <tr> <th>「教材とつながる」</th> <th>「仲間とつながる」</th> <th>「自分とつながる」</th> </tr> <tr> <td>① 運動の得意不得意に関わらず誰もが楽しいと感じる教材を開発する。また、「する・みる・支える・知る」の視点を明確にすることで、仲間との積極的なかわりが生まれ、運動を多様に楽しむことができるようにする。</td> <td>② 心と体の関係に目を向けて運動に取り組むことができるようにするために、仲間と対話しながら課題に合った運動を選ぶようにする。また、進んで仲間と関わり合いながら学習に取り組むことができるようにするために、仲間との関わり方を自己評価する。</td> <td>③ 子どもの素直な心の変化を引き出すことができるようにするために、振り返りを工夫して行う。また、子どもが日常的に運動できるようにするために、体ほぐしの運動に取り組む場を設ける。</td> </tr> </table>	「教材とつながる」	「仲間とつながる」	「自分とつながる」	① 運動の得意不得意に関わらず誰もが楽しいと感じる教材を開発する。また、「する・みる・支える・知る」の視点を明確にすることで、仲間との積極的なかわりが生まれ、運動を多様に楽しむことができるようにする。	② 心と体の関係に目を向けて運動に取り組むことができるようにするために、仲間と対話しながら課題に合った運動を選ぶようにする。また、進んで仲間と関わり合いながら学習に取り組むことができるようにするために、仲間との関わり方を自己評価する。	③ 子どもの素直な心の変化を引き出すことができるようにするために、振り返りを工夫して行う。また、子どもが日常的に運動できるようにするために、体ほぐしの運動に取り組む場を設ける。	<p>イ 評価規準</p> <table border="1"> <tr> <th>知識・技能</th> <th>思考・判断・表現</th> <th>主体的に学習に取り組む態度</th> </tr> <tr> <td>ア 体ほぐしの運動を行い、心と体の関係に気付いたことを言ったり書いたりしている。</td> <td>ア 自己の心と体の状態に応じて運動の課題や行い方を選んでいる。 イ 体をほぐすために自己やグループで考えた運動の行い方を他者に伝えている。</td> <td>ア 体ほぐしの運動に積極的に取り組もうとしている。 イ 約束を守り仲間と助け合おうとしている。 ウ 仲間の気付きや考え、取組のよさを認めようとしている。 エ 場や用具、周囲の安全に気を配っている。</td> </tr> </table>	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	ア 体ほぐしの運動を行い、心と体の関係に気付いたことを言ったり書いたりしている。	ア 自己の心と体の状態に応じて運動の課題や行い方を選んでいる。 イ 体をほぐすために自己やグループで考えた運動の行い方を他者に伝えている。	ア 体ほぐしの運動に積極的に取り組もうとしている。 イ 約束を守り仲間と助け合おうとしている。 ウ 仲間の気付きや考え、取組のよさを認めようとしている。 エ 場や用具、周囲の安全に気を配っている。
「教材とつながる」	「仲間とつながる」	「自分とつながる」											
① 運動の得意不得意に関わらず誰もが楽しいと感じる教材を開発する。また、「する・みる・支える・知る」の視点を明確にすることで、仲間との積極的なかわりが生まれ、運動を多様に楽しむことができるようにする。	② 心と体の関係に目を向けて運動に取り組むことができるようにするために、仲間と対話しながら課題に合った運動を選ぶようにする。また、進んで仲間と関わり合いながら学習に取り組むことができるようにするために、仲間との関わり方を自己評価する。	③ 子どもの素直な心の変化を引き出すことができるようにするために、振り返りを工夫して行う。また、子どもが日常的に運動できるようにするために、体ほぐしの運動に取り組む場を設ける。											
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度											
ア 体ほぐしの運動を行い、心と体の関係に気付いたことを言ったり書いたりしている。	ア 自己の心と体の状態に応じて運動の課題や行い方を選んでいる。 イ 体をほぐすために自己やグループで考えた運動の行い方を他者に伝えている。	ア 体ほぐしの運動に積極的に取り組もうとしている。 イ 約束を守り仲間と助け合おうとしている。 ウ 仲間の気付きや考え、取組のよさを認めようとしている。 エ 場や用具、周囲の安全に気を配っている。											

ウ 単元における指導と評価の計画

時	1	2	3(本時)	4
学習の流れ	<p>体ほぐしの運動にはどんな運動の行い方があるのか知ろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 手軽にでき、誰もが楽しいと感じる体ほぐしの運動を実践する。【視点①】 ○ 楽しく運動したときの自分の気持ちについて考える。【視点③】 	<p>みんなが「楽しい」「もっとしたい」と思う運動を考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ より運動を楽しく、苦手な人でも楽しむことができるような工夫点を考える。【視点②】 ○ 自分たちが考えた運動をしてみた後の仲間との関わり方について考える。【視点②】 	<p>それぞれのグループの運動を他のグループにも紹介してやってみよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ グループごとに、自分たちの考えた運動を発表し合い、工夫した点について伝える。【視点①】 ○ 他のグループの運動をしてみた後の自分の気持ちについて考える。【視点③】 	<p>業間や休み時間で体ほぐしの運動をやってみよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 活動してきたことを生かして、全校集会で発表し、休み時間等を使って実践する。【視点③】 ☆ 児童会・学級活動と横断的に進めていくことで、見方・考え方を一層働かせ異学年との交流につなげる。
主な評価	知	ア(様態、ノート)		
	思		ア(様態、ノート)	
	態	エ(様態、ノート)	ウ(様態、ノート)	イ(様態、ノート)

(2) 単元構想

ア 単元目標

- 体ほぐしの運動の行い方を理解するとともに、手軽な運動を行い、心と体の関係に気付いたり、仲間と関わり合ったりすることができるようにする。(知識及び運動)
- 自己の体の状態に応じて、体ほぐしの運動の行い方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。(思考力、判断力、表現力等)
- 体ほぐし運動に積極的に取り組み、約束を守り助け合って運動をしたり、仲間の考えや取組を認めたり、場や用具の安全に気を配ったりすることができるようにする。(学びに向かう力、人間性等)

イ 本単元で身に付けさせたい力の系統表

学年	低学年 〈体ほぐしの運動遊び〉	中学年 〈体ほぐしの運動〉	高学年 〈体ほぐしの運動〉
知識及び技能	○ 手軽な運動遊びの行い方が分かり、心と体の変化に気付いたりみんなで関わったりすることができる。	○ 手軽な運動を行い、心と体の変化に気付いたり、みんなで関わったりすることができる。	○ 手軽な運動や律動的な運動を行い、心と体の関係に気付いたり、仲間と関わり合ったりすることができる。
思考・判断・表現力等	○ 体を動かすと気持ちがよいことに気付き、友達と協力したり助け合ったりするなど、楽しく運動する行い方を選ぶことができる。	○ 体を動かすことによる気持ちの変化に気付き、友達と協力したり助け合ったりするなど、より楽しく運動する行い方を選ぶことができる。	○ 自分や仲間の心や体の状態、体力に応じて運動の行い方を工夫するとともに、自分や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。
学びに向かう力、人間性等	○ 運動遊びに進んで取り組み、きまりを守り仲よく運動をしたり、場の安全に気を付けたりすることができる。	○ 運動に進んで取り組み、きまりを守り仲よく運動をしたり、友達の考えを認めたり、場や用具の安全に気を付けたりすることができる。	○ 運動に積極的に取り組み、約束を守り助け合って運動をしたり、仲間の考えや取組を認めたり、場や用具の安全に気を配ったりすることができる。

ウ 本単元を通して育てたい子ども像(ゴールイメージ)及び教師の願い

仲間とともに「体を動かす楽しさや心地よさ」を味わう愛顔あふれる子ども
心と体の関係や仲間との関わりを意識して「体を動かす楽しさや心地よさ」を味わわせたい。また、体ほぐしの運動を多様に楽しむことを通して、子どもの心に深く刻まれる学びとしたい。

5 本時の指導 (3 / 4)

(1) 目標

- 体をほぐすために自己やグループで考えた運動の行い方を他者に伝えることができる。

(思考・判断・表現)

(2) 準備物

- 教師 マーカーコーン、CDプレーヤー、CD
- 子ども ビニール袋ボール、新聞棒、体育ノート

(3) 展開

学習活動	○ 教師の働き掛けと子どもの意識の流れ	<input type="checkbox"/> 指導上の留意点 <input checked="" type="checkbox"/> 苦手な子ども・意欲的でない子どもへの支援・配慮 <input checked="" type="checkbox"/> 評価規準(方法)【観点】
1 準備運動をする。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">準備運動をしよう</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・音楽に合わせてリラックスして動こう。 ・今日は○○を意識して動かしておこう。 </div>	<input type="checkbox"/> 音楽に合わせて運動をすることで、リラックスして活動に取り組むことができる雰囲気づくりをする。
2 他のグループの運動をやってみる。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">グループごとに考えた運動を伝え、やってみよう</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin-top: 5px;">他のグループの運動をやってみよう</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・みんなに楽しいと感じてもらえるといいな。 ・この動きについてはアドバイスをしよう。 ・他のグループの発表も楽しみだ。 ・運動をして体がリラックスできた気がする。 ・もっとやりたいな。 ・友達と動きを合わせるのも楽しいな。 ・他の班の運動は自分たちの運動とちがっていて楽しかったな。 </div>	<input type="checkbox"/> ジグソー法を用いることで、説明する機会の確保や、運動量の確保をする。 <input checked="" type="checkbox"/> グループで対話をし、苦手な子どもが取り組みやすい実施方法を選択できるようにする。 <input checked="" type="checkbox"/> 体をほぐすために自己やグループで考えた運動の行い方を他者に伝えている。(様態)【思・判・表】
3 活動を振り返る。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">他のグループの運動について振り返ろう</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・時間があっという間に感じた。 ・もっと大人数でもやってみたい。 ・こんな運動もできるのではないか。 ・休み時間もやってみよう。 </div>	<input type="checkbox"/> ワークシートを使い、自由に自分の気持ちを表現できるようにする。 <input type="checkbox"/> 自分の活動を振り返る場と発表し合う場を設けることで、自他を認め、次の活動へ意欲をつなげる。

(4) 本時の研究の視点

- 運動能力差に関係なく、どの子どもも運動に前向きに取り組み、対話に必要な感を感じながらグループの中で自己を発揮することができているか。【教材とつながる】【仲間とつながる】
- 運動をした後での自分の心と体の状態を振り返り、楽しく運動をすることによる心と体の良好な関係について考えることができたか。【自分とつながる】